

# 「病気が治る気の医学」

青島大明

私は30年にわたり、日本で多くの難病奇病で悩む人々に気功を用いて施術や指導を行った。会員数は7500名、施術した延べ人数は50000名を超える。15歳で点穴専門の恩師賈永斌先生と出会い、私自身のヘルニアを治していただき、気功を学ぶこととなる。その後、外気功大雁気功の創始人である楊梅君先生の弟子になり、人に触れなくても病気を治す方法を習得。賈先生は点ツボ、楊梅君先生は触れずに施術する外気功と私は双方を学ぶことでその特徴を併せて施術に活かせるようになった。しかし、一部の患者に、「気功の施術直後に症状は緩和するが、その後再発や調子を崩す」というケースがあった。そこで法術の(祝由十三科)黄茂祥先生に師事して勉強し、さらに色々な病気を改善できるようになった。

私は点ツボ、外気功、法術、この3つを統合して施術を行うことにより、ヘルニア、腫瘍、癌、血圧症、慢性疾患症、膠原病、精神的な病、自閉症、脳発達障害、アルツハイマー病、パーキンソン病、さらに電磁波過敏症、化学物質過敏症、脳梗塞、脳溢血、くも膜下出血など、広範囲の病を治すことが可能になった。

## ●重篤な糖尿病・腎臓の病気を克服 (A 男 1975年生まれ)

2016年4月。糖尿病、腎臓も悪くなり、40歳で私のもとへ来院した時には、足のむくみもかなりひどく、歩けないほどだった。血糖値は700を超え、腎臓透析が必要な状態で、仕事もできず「死にたい」思いもあった。私が施術を行うと、すぐに楽に歩けるようになり、2、3回の施術で全身のむくみや痛みも次第に取れていった。糖尿病も落ち着き、食欲が出て本人にも元気が戻り、家業の手伝いも少しずつ出来るようになった。その後、腹膜透析を開始したが、彼の体調が維持できたので、透析液も一番低い濃度を維持することができた。糖尿病も治癒していった。検査値もすべて正常になり、43歳の秋には母親の腎臓を移植できるまでに回復。その後の経過も順調で現在も元気に過ごしている。

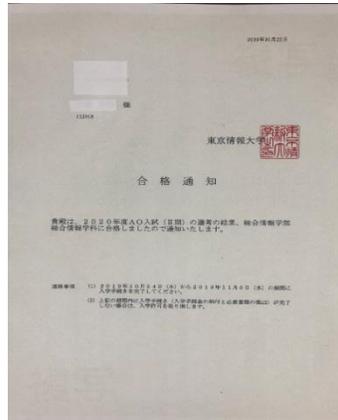
## ●末期癌の男性 (B 男 1954年生まれ)

2012年にステージ4の前立腺癌と診断され、ホルモン療法(1年)や玄米菜食などのあらゆる民間療法(5年)を続けたが、2017年1月に体調が悪化して、前立腺癌が全身の骨、肺、腹まぐ、大腸、肝臓、背骨のリンパなどに転移し、余命1ヶ月を宣告された。2017年8月に初めて気功院で私の施術を受けた。気功について本格的に学び、現在も大変元気な状態です。

●自閉症の青年 (D 男 2001年生まれ)

彼は2005年2月、4歳の時に初めて私の気功施術を受けた。当時わずか6つの発音しかできず、中度自閉症だった。熱心に施術を受けると劇的に改善し、小学校6年間は入学から卒業するまで、常にすべて百点を取ることができた。中学校受験後も成績は大変優秀で、高校受験するまでは塾にも行かず、図書館での独自の勉強ですべての科目が優秀成績だった。盲文字も習得した。

彼はどこの大学でも合格可能な難易度の高い公立高校に入学した。2019年10月24日に東京情報大学にみごと合格した。



・合格通知

●発達障害の男性が絵画の才能を発揮 (E 男 1982年生まれ)

2009年8月に初めて気功施術を受けた。彼は発達障害であり、歩くことはできるが常に腰を曲げ、ダラダラと歩く。知的な発達障害も非常に大きい状態だった。

気功の施術を受けはじめてから、身長が3年間で7cmも伸びた。素晴らしい絵画の能力も発揮し、賞も取った。工房では自分の作品を販売し、社会貢献もしている。私ともコミュニケーションをとれるようになった。気功学会の魏玉龍先生に漢方薬を処方してもらい、精神状態に合わせて飲んでいく。気功と漢方薬の両面から彼をサポートしている。

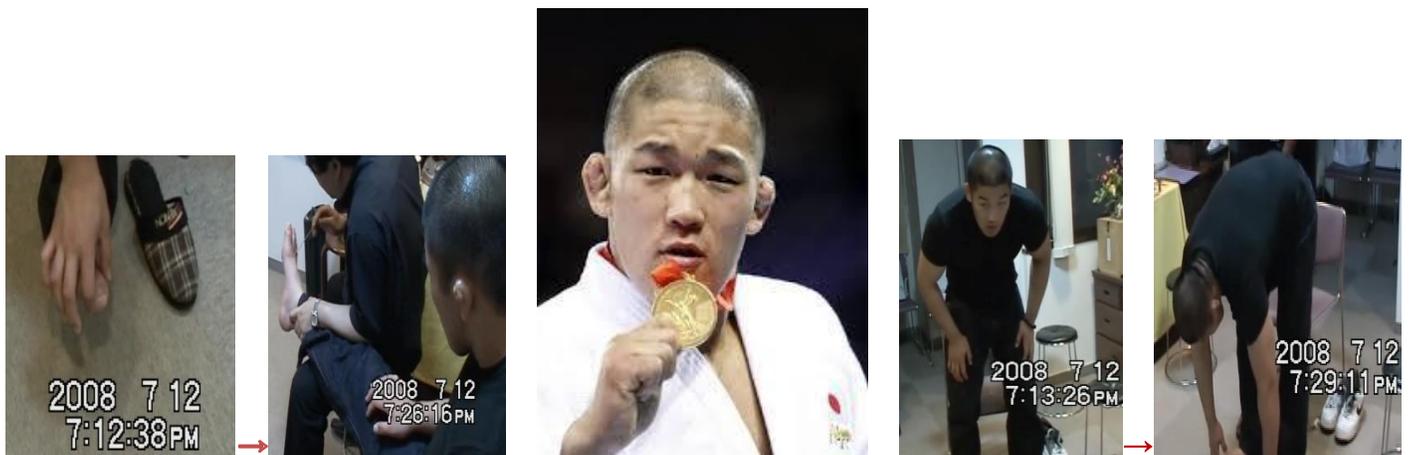


●精神的な病気、怪我を克服し金メダリストに (F 石井慧 男 1986年生まれ)

以前の論文でも紹介したが、2008年7月、柔道の石井選手が来院。8月の北京オリンピックの金メダリストである。その北京オリンピック直前の練習で大怪我を負い、右足の親指は脱臼した上に骨が皮膚から飛び出し裂傷してしまい、大変な痛みがある状態だった。

怪我をしたのは6月中旬で、彼の試合は8月15日。7月12日に私の気功院に来院した時はまだ足の痛みは引かず、手も上がらず、さらには精神的にも鬱病を患っていた。

気功施術を2度受け、私が上から踏んでも痛みはなくなり、股関節も治癒して大きく開脚できるようになった。腰と首のヘルニアも治り、手も上がるようになった。そして8月15日の北京オリンピックで見事金メダルを獲得した。



・2008年北京オリンピック金メダリスト 石井慧氏



●動脈瘤、くも膜下出血を手術せずに治した男性 (G 男 1963年生まれ)

彼は2009年にくも膜下出血を発症。突然、口、顔、半身が動かなくなり、すぐに彼の奥様が私に連絡をしてきた。電話口で出血を止める法術をやり、周天を回すなどを指示し、気功で応急処置を行ったあと、病院へ搬送されたが、車内で血圧はすでに正常値に戻っていた。医師からは緊急手術を勧められたが、奥様は手術を拒否し、病院から3日間の猶予をもらった。

その間、3回の気功施術を行った。そして、その後の検査では、脳内の血液、破裂した動脈瘤も見つからず、3週間で退院した。彼は現在、大学教授として活躍している

●電話施術のみで脳溢血から回復した男性 (H 男 1966年生まれ)

2014年5月の夜に突如脳溢血を引き起こした男性。救急車で搬送中の彼の母親から連絡を受けた時、私は日本の某有名大学病院循環器権威である主任教授ご夫婦と会食中だった。すぐに電話での遠隔施術で出血を止める法術を開始した。同席のご夫婦は、電話での遠隔施術に大変驚いていた。1ヵ月で退院し、後遺症もなく現在も元気に過ごしている。電話での遠隔施術は、2001年に脳幹出血の患者へも行ったが、手術せずに回復している。

●動脈瘤の手術を回避した男性 (I 男 1975年生まれ)

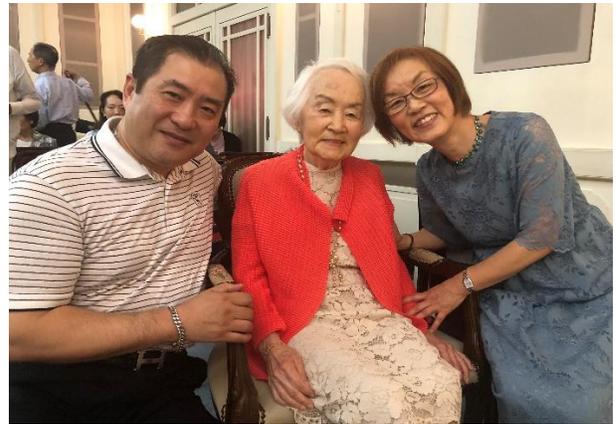
彼は2016年5月、4.2ミリの脳動脈瘤を発症し、病院で手術を勧められたが、2016年6月から月に1度程度の気功施術により、3ヶ月後には3.8ミリに縮小し、現在は2.5ミリまでに縮小した。医師からは手術はしなくても良いと言われ、職場では責任者として働いている。

●上腸間膜動脈解離を発症した男性 (J 男 1959年生まれ)

2018年10月13日に上腸間膜動脈解離を発症したが、腸管虚血症状はなく、入院もせず、私の気功施術と色々なアドバイスにより経過も順調だった。その後、2018年12月、2019年6月のCT検査でも解離したSMAの瘤化もなく、今後は1年毎のCTフォローアップで良いと診断された。

●90代での脳梗塞 (K 女 1923年生まれ)

現在 96 歳。ピアニスト、教授。93 歳の時、夜中にトイレで倒れ、身体の右半身がのびて動かなくなり、電話施術を行った。倒れて 2 時間後には意識ははっきりし声が出るようになった。その時、病院から脳梗塞と診断されたが、現在もピアノ演奏を楽しみながら、自身のピアノ教室のチャリティーコンサートにも出演している。



・ 2019 年 7 月 28 日チャリティー音楽会場での記念撮影

●数回の危篤状態を乗り越え壊死した指が再生 (L 女 1919年生まれ)

88歳で突然の肺不全、心不全、腎不全を次々発症し、何度か危篤状態になりながら、いずれも気功施術で回復した。月に1度程度の私の気功施術と家族に指導した気功法を毎日続けた結果、97歳まで生き続けた。この患者の足の指からは、壊疽になり真っ黒になってしまったこともあったが、気功施術をすると、黒い部分が落ちて、新しい指が生え始めた。これは気功による再生現象が起きたと考えている。



・ 右足 2015 年 4 月 24 日 2016 年 3 月 14 日

・ 左足 2015 年 12 月 7 日 2016 年 3 月 14 日

●ギランバレー症候群からの回復 (M 男 1975 年生まれ)

彼は 2018 年 1 月 9 日頃から身体が動かなくなり、床から自力では起き上がれず、呼吸も苦しく、物を飲み込むのも困難になった。すぐに気功施術を行い、その時点で握力は 8 kg ほど。大学病院で検査をした結果、2017 年 12 月 27 日に食べた生の鶏肉に含まれた、カンピロバクターという細菌を原因とした、ギランバレー症候群の疑いとのことだった。これは場合によっては死に至ることもある。すぐに気功施術を行ったところ病気は進行せず、握力は 2 月 2 日、2 4 日は共に 10kg ほどだったが、3 月 30 日は 15kg になり、4 月 20 日は 20kg、5 月 25 日は 23kg まで上がり、7 月 29 日には 30kg になった。体調もどんどん回復した。2019 年 3 月の検査では神経伝導速度検査も問題なく、通院は終わり、現在は階段を一段飛ばしで上がれるほど元気になった。

「気」は重要な生命の源である。それを自然の本能力、本来人間に備わる力を用い、私は心身の病気の施術を行っている。現代医学だけでは解明できない様々な問題を解決するために貢献しながら、さらに医学を進歩させ、病で苦しむ人々に貢献していきたい。